



- 腎移植外来を開設 / 小児病棟をリニューアル / RRSが稼働 / 最新事情 栄養科 (中面)
- 北部病院からのお知らせ (裏面)



WATCHMAN FLX™左心耳閉鎖術を開始しました

循環器センター循環器内科では心房細動に対するカテーテルアブレーションに加えて、2024年1月より左心耳閉鎖術を開始いたしました。

心房細動患者さんは正常な人と比較して脳卒中リスクが約5倍になり、脳卒中を生じさせる血栓の90%以上が左心耳から発生していると言われています。脳卒中予防のためにワルファリンもしくは経口直接抗凝固薬 (DOAC) の内服が必要となりますが、出血イベントを起こす場合や、出血リスクが高く内服継続が難しい場合があります。そのような患者さんで左心耳閉鎖術は脳卒中予防の代替療法となります。

先端にデバイスを付けたカテーテルを大腿静脈より挿入し、心房中隔を穿刺して左心房に到達させたのち、デバイスを膨らませ左心耳の入口部に留置します。手術は全身麻酔で行い、手技時間は約1時間で、一般的に手術の翌日から歩行可能です。WATCHMAN FLXは臨床試験で高い手技成功率 (98.8%) とDOAC中止率 (96.2%) が報告されております (抗凝固薬の代わりに抗血小板薬の内服が必要となる場合があります)。左心耳閉鎖術を行うことで長期の出血リスクを伴うことなく脳卒中リスクを低減することが期待できます。

不整脈に関することや抗凝固薬内服中の出血でお困りの場合はご紹介をよろしく申し上げます。



©2021 Boston Scientific Corporation.
All rights reserved.



経皮的僧帽弁クリップ術 (マイトラ) を開始しました

循環器センター循環器内科では2024年2月より新たに『マイトラクリップ』を開始いたしました。僧帽弁閉鎖不全症の治療である外科的弁形成・弁置換術に加えて新たな治療選択肢となる治療法です。マイトラクリップは臨床試験で心不全の治療として高い有効性が確認されており、重度の機能的僧帽弁閉鎖不全症を伴った心不全患者さんの予後、QOLを改善します。現在心不全に対して使用されている薬剤、デバイスの中でも優れた心不全増悪、死亡率低減効果があります。適応となるのは、左室拡大、左房拡大などによる中等度から重度機能的僧帽弁閉鎖不全症の患者さんです。また外科的治療が高リスクな一次性僧帽弁閉鎖不全症 (主として僧帽弁逸脱症など) も治療の適応となります。該当する患者さんであっても解剖学的にマイトラクリップでは治療が困難である場合もあります。治療の際は、約1週間程度の入院期間で治療を実施します。耐術能がある一次性僧帽弁閉鎖不全症、他の心疾患を併存しているなどであれば従来通り外科的治療がまずは検討されることとなります。

僧帽弁閉鎖不全症でお困りの患者さんがいらっしゃいましたらご紹介をよろしく申し上げます。



Mitra Clip® (マイトラクリップ)



腎移植外来を開設しました

住民の高齢化、糖尿病や高血圧などの生活習慣病の増加に伴い慢性腎臓病は増加の一途で、年間で約37,000名の方が透析療法を開始されています。2022年末時点では、日本全国では33万人以上の患者さんが透析療法を受けています。末期腎臓病の治療には透析療法（血液透析、腹膜透析）と腎移植がありますが、腎移植はQOLや生命予後に優れ、医療費の軽減にも有益である究極の治療法です。近年では、透析療法を介さず、保存期腎臓病から移植を行う先行的腎移植も行われています。多くの長所を有する腎移植ですが、様々な理由により日本では腎移植の普及は遅れており、年間1,800件程度です。

昭和大学では、腎代替療法として腎移植の普及に注力しており、2020年には昭和大学病院に腎移植センターが設置されました。この度、横浜北部地区でも腎移植医療を広く普及させるべく北部病院にも腎移植外来を開設しました。

その内容は、

- 保存期腎臓病で将来腎代替療法が必要と考えられる方や親族に対する腎移植の情報提供（移植の長所、短所の詳しい説明、実際の手順など）
- 横浜北部地域の透析施設で透析を受けている方や親族に対する腎移植の情報提供（献腎登録や生体腎移植の説明など）
- 移植の準備や生体腎移植におけるドナーのスクリーニング検査

となります。担当する医師は腎移植センターの吉武理センター長で診療日時は第3火曜日午後となります。

今後、北部病院では腎移植に関する情報を様々な形で積極的に発信して参ります。是非、腎移植を考えている患者さんがおられたら、気軽に腎移植外来にご紹介をお願いします。



小児病棟をリニューアルしました

2023年9月にスタートした当院の小児病棟のリニューアル工事が、2024年3月に完了しました。この改修は、小児病棟の治療環境を向上させ、保護者の方にも安心してご利用いただけるようにするためのものです。

リニューアル後の病床数は、一般病床33床、新生児集中治療室（NICU）12床、そして新生児回復室8床となります。

一般病床については、感染症対策を重視し、個室や2床部屋を増設しました。これにより、患者様により安全な治療環境を提供できるようになります。小児外科ではリニューアルした病棟を利用し、土曜日の臍ヘルニア日帰り手術を開始しました。

NICUに関しては、3床増床し、これまで手狭だったスペースを改善し、ベッド間の距離を広げました。保護者の方にもゆっくりと赤ちゃんとの時間を過ごせるように配慮し、家族の絆を深めるための安心できる空間作りを心がけています。今回、陰圧個室を2床設けました。これにより、感染隔離が必要な赤ちゃんへの対応が可能となります。

また、新生児回復室では大きな窓を設けることにより、明るく開放的な環境を作り出しました。これは、赤ちゃんたちが心身ともに健やかに成長するための重要な要素です。

当院は、これらの改修を通じて、小児医療の質の向上と患者様およびご家族の快適さを追求して参ります。地域の皆様にとって、より信頼できる医療機関となるよう努めてまいります。



リニューアルした個室



リニューアルしたプレイルーム



RRS (院内迅速対応システム) が稼働しています

RRS (Rapid Response System) とは緊急時対応コールのひとつです。似たようなコールに「コードブルー」があります。コードブルーは心肺停止などの急変時に、「対応可能な者は全員大至急走って集合」というぐらいの状況なのに対し、このRRSは急変に至るよりもう少し早い段階での対応を担当します。急変を起こす患者さんはその6～8時間前から何らかの変化が起きるとされています。一見普通に見える患者さんでも急変する兆候をいち早く察知し、急変に至る以前に適切な処置や準備を行い、心停止を避け得る場合には予後を改善し、心停止が避けられない場合でも事前に体制を整えてそれに対処することを可能にするシステムです。

当院では2023年7月よりRRSを稼働させ、看護師が測定したデータを点数化して評価するNEWSスコアを用い、高リスクに分類される患者を自動的に抽出するアプリケーションを導入しました。高リスク患者はRRT (Rapid Response Team) に連絡し、このRRTが担当医とともに、濃厚な監視体制下で必要な処置を早期に開始します。今までも看護師の観察下に何かちょっと様子がおかしいと気づかれることもありましたが、客観的な裏付けがないと、医師にそれを伝えて濃厚な監視体制下に処置を始めることには抵抗がありました。このシステム稼働後、RRSが起動されICUに入室した患者さんは全例急変を回避し、一般病棟へ戻ることができています。まだ始まったばかりですが今後の活躍どうぞご期待下さい。

栄養科 最新事情

栄養科は、栄養科の基本方針である、

- 患者本位の細やかな栄養管理を実践する
- チーム医療を推進する

を実践するよう日々取り組んでいます。また、給食管理においては、株式会社アルスに完全委託のもと、委託会社の職員と協同でまごころのこもった給食管理を行うよう努めており、2024年2月現在、管理栄養士4名、栄養士1名、委託会社職員71名の計76名で業務にあたっています。

給食管理においては、年7回行事食を行い、毎月お誕生日を皆さんでお祝いをするという意味で月1回お祝い膳を提供して患者さんに楽しんでいただいています。

栄養管理業務では、入院診療計画書で特別な栄養管理の必要性が「有り」と評価された患者さんに対して栄養管理計画書を作成し、定期的に栄養評価をしています。

● 認定資格取得状況

(2024年2月現在)

病態栄養専門管理栄養士	3名
がん病態栄養専門管理栄養士	1名
糖尿病療養指導士	3名
栄養サポートチーム専門療法士	2名
心臓リハビリテーション指導士	1名
高血圧・循環器病予防療養指導士	1名

● 2022年度栄養指導実績

糖尿病	1741件	肝疾患	26件
腎疾患	1018件	高血圧症	22件
心疾患	199件	高尿酸血症	1件
脂質異常症	30件	消化器術後	262件
肥満	46件	炎症性腸疾患	41件
膵・胆嚢疾患	2件	その他	90件

管理栄養士は緩和ケアチーム、摂食嚥下サポートチーム、褥瘡ケアチーム、NSTサポートチームの一員として食事内容や食事の形態などの提案を行い、栄養状態の改善につなげています。

また、当院に入院中及び外来通院中の食事療法が必要な患者さんに対して、医師の指示のもと、疾病の予防や重症化を防ぐために栄養指導を月平均約300件行っております。



秋の食材を使用した行事食「秋分の日」

4月からは新入職員を迎え、一つの業務に真摯に取り組み自己研磨し、より充実した栄養管理が出来るよう精進してまいります。

北部病院からのお知らせ

1 地域医療連携フォーラムの開催について

第29回地域医療連携フォーラムを次のとおり4年ぶりに対面で開催し、講演会及び懇親会に、病院内外から91名の参加がありました。ありがとうございました。

日時：2024年2月22日（木）19時15分から21時

場所：新横浜グレイスホテル

講演1：骨盤臓器脱に対する手術療法 ～ロボット支援下仙骨固定術を中心に

座長 やすこレディースクリニック 院長 林 康子 先生

演者 女性骨盤底センター 准教授 野村 由紀子

講演2：当科におけるロボット支援手術の現状と今後の展望

座長 都筑はやし泌尿器科クリニック 院長 林 圭一郎 先生

演者 泌尿器科 准教授 齋藤 克幸



2024年度の地域医療連携フォーラムは次のとおり予定しています。

第30回 2024年6月13日（木）	開催日が近づきましたら、当院ホームページやチラシでご案内させていただきますので、ご参加のほどお願い申し上げます。
第31回 2024年11月13日（水） ※水曜日の開催	
第32回 2025年2月13日（木）	

2 病診連携研修会の予定

開催日時	名称・内容	場所	担当医師等・連絡先
4月8日（月） 19:30～20:45	都筑区内科医会 地域連携勉強会	北部病院 西棟4階講堂	内科 加藤 雅典 haru-k@med.showa-u.ac.jp (内科秘書 河野)
5月12日（日） 9:00～17:35	第1回横浜市北部緩和ケア研修会 (集合研修) ※ e-learning 事前受講あり	北部病院 西棟4階講堂	管理課 松下 nhkanri@ofc.showa-u.ac.jp

3 北部病院 ゴールデンウィーク対応 2024年

日付	曜日	休日名	診療状況
4月	28日	日	日曜日 休診
	29日	月	昭和の日 ※救急対応を原則とし、救急、初診、紹介、並びに通院中の方で状態変化による臨時再診をお受けします。
	30日	火	通常診療
5月	1日	水	通常診療
	2日	木	通常診療
	3日	金	憲法記念日 ※救急対応を原則とし、救急、初診、紹介、並びに通院中の方で状態変化による臨時再診をお受けします。
	4日	土	みどりの日
	5日	日	こどもの日 休診
6日	月	振替休日 ※救急対応を原則とし、救急、初診、紹介、並びに通院中の方で状態変化による臨時再診をお受けします。	

※紹介状がない場合は選定療養費(8,800円)が別途発生する場合があります。